2024年度QUINTBRIDGE 3年目

会員と共に実績を積み重ね、更なる飛躍へ

1年目

2022-2023年

1万人を超える会員が集まり共創の場が活性化

開業1カ月で5,400人が利用するなど、当初想定を大きく上回る会員数、イベント数となった。会員主体のイベントが活発化し、コミュニティが加速度的に成長。自発的な共創の場として、会員の行動が施設の可能性を大きく広げた。

個人会員
10,270人

法人会員
670組織

生まれた共創事例
12事例

累計利用者数
7万人

2年目

2023-2024年

理念に共感した会員による共創事例が多数生まれ始める

施設理念「Self-as-We」に共感した多様な会員が多く集まり、そこから50件以上の共創事例が生まれた。また、自治体が直接生きた課題を持ち込む「自治体ピッチ」やQBコミュニティを形成する「UP↑UP↑Program」など3年目に繋がる企画が多く立ち上がった。

個人会員
18,495人

法人会員
1,336組織

生まれた共創事例
50事例

累計利用者数
16万人

3年目

2024-2025年

GOOD DESIGN AWARD 2024

共創事例の増加と共に、活動の輪は施設の枠を飛び出し、社会に広がり始める

1・2年目の取り組みがさらに拡大し、数々の実績に繋がった。イベントを通じた共創活動や、施設内外での実証実験による事業開発が加速し、具体的な事業創出の事例が次々と報告された。その鍵となったのは、コミュニケーター相談窓口や共創ポストなど、共創を生み出すための仕掛けだ。QB名物企画の自治体ピッチはQBを飛び出し、アジア最大級のスタートアップの祭典「ILS2024@虎ノ門ヒルズ」で出張版を開催し、約300名を集客。また、グローバルでの認知の高まりも背景に、多くの海外スタートアップや公的機関が視察に訪れている。地域とのつながりも深まり、京橋商店街から「QB愛好会」が立ち上がり、街と共に「QBがある京橋エリア」について考える動きが始まった。こうしたユニークな共創の仕組みが評価され、2024年グッドデザイン賞を受賞した。

個人会員
25,504人

法人会員
1,895組織

生まれた共創事例
115事例

累計利用者数
25万人

イベント開催数
453回/年

一日平均来館者数
308人

QB連携パートナー
77組織

増え続ける共創事例 115事例

進化する共創、実証から社会実装へ

3年目の共創事例は、実証実験を経てβ版のリリースやサービス化へと進化したものが多くなった。QBのゼミ活動からも「ひらパー×Minipic」や、ゲーム機を活用したプログラミング学習「山鹿プロジェクト」などの共創成果が生まれた。

事業共創プログラム BUSINESS MATCH-UP! For Next Value

NTT西日本グループのアセットとスタートアップのイノベーティブなプロダクトを掛け合わせ、新たなサービスを共創する「Business Match-up!」では、3つのテーマで6社を採択。すでにサービス化に向けた実証実験などの動きが本格化している。QUINTBRIDGEを起点とした共創が、実践フェーズへと大きく前進している。

3社採択
ライブコマース
プラットフォーム

2社採択
EV導入運用支援
ソリューション
N.mobi（エヌモビ）

1社採択
スマートシティ
実現に向けた
データ連携基盤サービス

QBを舞台とした様々な実証実験から広がる新たなチャンス

近畿大学発ベンチャーの(株)古殿研究所は、パーソナライズドリンク提供サービス「DRIGGER」のビジネス性検証を行い、今後のパートナー企業の発掘にも成功した。また、「Future_Build」でIOWNのユースケース創出として採択されたバルス(株)は、共同でInterop2024へ出展し、大きな賑わいを見せた。同じく採択パートナーであるtonari(株)とは「IOWN×遠隔拡張コミュニケーション」として館内で実証展示中だ。

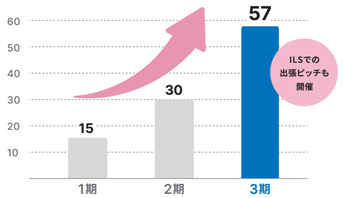
DRIGGERの実証模様

IOWN×tonariの実証模様

ピッチ参加自治体数が、約4倍に増加（初年度比）

自治体が自ら解像度の高い課題を持ち込み、スタートアップと共に解決策を考える自治体ピッチ。回を重ねるごとに参加自治体も増え、これまでに延べ100名以上の自治体職員が登壇し、QBの名物企画へと成長した。さらに今年は、「ILS2024@虎ノ門ヒルズ」に6つの自治体と共に参戦。自治体の課題を大企業とスタートアップの共創で解決するという切り口は、10年の歴史を持つILSでも初めての試みとして注目を集め、ピッチ会場は満員となった。QB発の自治体ピッチは、地域を超えてさらなる広がりを見せている。

ピッチ参加自治体数の推移



共創事例 自治体ピッチ発　京都市×赤外線サバゲーで公園活性化

京都市と(株)二加屋が連携し、西京極総合運動公園の活性化をめざす共創事例が誕生。京都市は「KYOTO CITY OPEN LABO」の取組の一つとして赤外線サバイバルゲームを採択し、2024年8月に約120名の市民に向けて京都アクアリーナでイベントを開催。これを契機に赤サバの可能性が広がり、2025年1月に(株)二加屋から、(同)キャリアボンドとして事業化を果たした。

共創を生み出すQBらしい仕組みが続々と

共創活動を支えるコミュニケーター相談窓口

QB会員の共創促進に重要な役割を果たす「コミュニケーター」。施設の使い方やイベントの相談にとどまらず、会員同士のマッチングや事業共創の壁打ちまで、幅広く支援している。時には、連携パートナーや自治体職員がコミュニケーターブースに座り、会話が生まれることも。こうしたオープンな交流こそが、QBらしい共創を生み出している。

思いをつなぐ、共創ポスト

業種・業態・規模を超え、解決したい社会課題があれば誰もが共創パートナーになれるQB。共創ポストには、解決したい社会課題が書かれていても、社名は書かれていない。「思い」を共有する場だからこそ、会員はコミュニケーターや他の仲間を信じて、自分の思いを投函する。そこには、きっと共に挑戦するパートナーが待っている。

地域社会の一員として、共にまちを創る

QBは京橋地域の共創のハブとして、多様なプレイヤーが集い、地域の未来を共に創る場となり始めている。京橋の可能性を探るギャザリングイベントの開催や、商店街QB愛好会による活用促進など、地域と連携した取り組みがスタート。さらに、公・民・学・域の思いをつなぎ、新たな事業創出や地域活性化の動きが広がり始めている。

共創事例 大阪城と京橋をロープウェイで繋ぐ!? 妄想から動かすまちの未来

京橋中央商店街のCafe&Bar ANGLERで開催された「京橋×QB妄想会議」。店内にひしめき合ったのは、京橋で生きる商店街の皆さんと各地の猛者、そしてQBコミュニケーター。「京橋はどんな街でありたいか?」「京橋で起こすオープンイノベーションとは何なのか?」キタやミナミとは違う京橋ならではの活性化策を熱く語り合う仲間との第一歩が始まった。

海外からの注目も増加

Self-as-Weの理念ドリブン運営に驚き・共感

QBは、NTT西日本を中心と置かず会員の一つと捉え、会員と共に社会課題解決に挑戦するという理念で場を運営している。東洋思想に端を発するその独自の取り組み・施設運営の仕組みは、海外のイノベーターや経済学者からも高い関心を集めている。多様な価値観を持つ彼らにとって、QBの取り組みは新鮮であり、創造的な刺激を与える場になっている。

施設理念

「わたし」の挑戦を、
「わたしたち」の挑戦へ。

Self-as-We

QUINTBRIDGEが大切にする、考え方です。

「わたし」の挑戦

「わたし」としての考え

わたし　あなた

↓

「わたし」の成功のために
「あなた」に協力してもらう

「わたしたち」の挑戦

「わたしたち」としての考え

わたしたち

↓

社会課題を解決するために
「わたしたち」でチャレンジする

QUITBRIDGEのユニーク性が評価され グッドデザイン賞を受賞しました

審査員の評価コメント

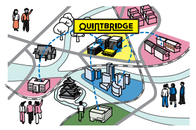
これまで多くのイノベーション施設が開設されているが、ここまで企業が自社利益に固執せず、社会課題解決を志す多くの人々に場を開放した拠点は極めて少ないのではないだろうか。利用ルールや多彩なプログラムによって、参加者が集まりやすい環境を整え、経済循環を超えて社会関係資本の蓄積を目指している点にも注目が集まった。この取り組みは、多くのイノベーション施設におけるエコシステム醸成のヒントや雛形になるだろう。イノベーション施設として多くの参加者を引き込み、多くの共創プロジェクトを実施している活動自体も評価の対象だが、その利用者が周辺の街を回遊することにより、地域社会全体の活性化にも寄与している点は、この施設ならではのユニークな特徴として高く評価した。

GOOD DESIGN AWARD 2024

QUITBRIDGEの3つのユニーク性

オープンかつ中立的
自社を中心と置かない場をデザイン

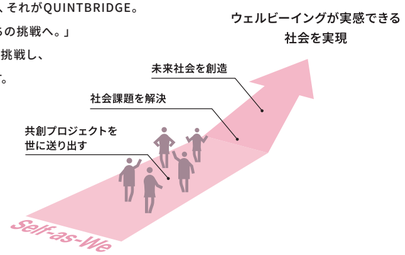
情報や人脈こそが重要
『価値の転換』を行い会費を無料とした



イノベーティブな街づくり
自社敷地をひらき、まちの機能をつなぐ

社会を変えたい
思いと思いが、出会う場所。
QUINTBRIDGE

世の中をもっと良くしたい、と考える企業・スタートアップ・学生・自治体などが、
立場にとらわれず交流するオープンイノベーション施設、それがQUINTBRIDGE。
施設理念は、「Self-as-We わたしの挑戦を、わたしたちの挑戦へ。」
志を持つ会員同士が社会課題解決と未来社会の創造に挑戦し、
ウェルビーイングが実感できる社会の実現をめざします。



公式ウェブサイト

〒534-0024
大阪府大阪市都島区東野田町4-15-82
平日 9:00-21:00 / 土曜日 13:00-18:00 / 日曜日・祝日 休業

QUINTBRIDGE
Report 2024-2025